

# 「今、何の病気が流行しているか！」

## (川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第4週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第4週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第4週（令和5年1月23日から令和5年1月29日まで）

第4週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.30人と前週（9.48人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.51人と前週（9.92人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“インフルエンザ～流行発生注意報が発令されました！～”について取り上げました。

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第4週（1月23日～1月29日）に11.30人となり、3シーズンぶりに流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）を超えました。区別では、川崎区が23.50人と最も多く、次いで高津区が17.80人となっています。

本市のリアルタイムサーベイランスによると、現在、市内の医療機関からの報告は、A型インフルエンザが多くを占めています。また、今シーズンに病原体サーベイランスの一環として健康安全研究所に搬入された検体のうち、計9検体からインフルエンザウイルスが検出され、全てA香港型でした。

インフルエンザの感染拡大を防ぐためにも、咳エチケットやマスクの着用、手指衛生等の予防対策を心がけましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

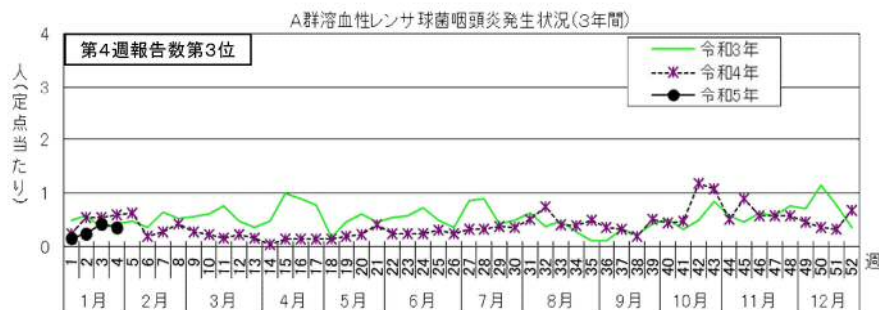
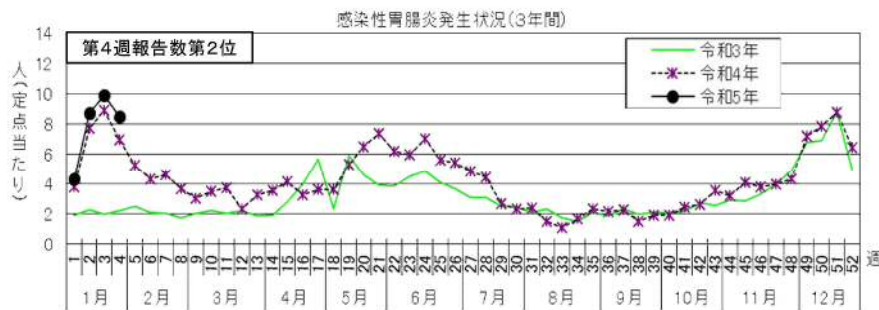
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木  
電話044（200）2446  
川崎市健康安全研究所 三崎  
電話044（276）8250

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月23日（月）～令和5年1月29日（日）〔令和5年第4週〕の感染症発生状況

第4週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.30人と前週(9.48人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.51人と前週(9.92人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.35人と前週(0.43人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



## インフルエンザ～流行発生注意報が発令されました！～

川崎市におけるインフルエンザの定点当たり報告数は、令和5年第4週（1月23日～1月29日）に11.30人となり、3シーズンぶりに流行発生注意報基準値（定点当たり10.00人）を超えました。区別では、川崎区が23.5人と最も多く、次いで高津区が17.8人となっています。

本市のリアルタイムサーベイランスによると、現在、市内の医療機関からの報告は、A型インフルエンザが多くを占めています。また、今シーズンに病原体サーベイランスの一環として健康安全研究所に搬入された検体のうち、計9検体からインフルエンザウイルスが検出され、全てA香港型でした。

インフルエンザの感染拡大を防ぐためにも、咳エチケットやマスクの着用、手指衛生等の予防対策を心がけましょう。

